

## 世界史教育の現状と課題 (Ⅲ)

— 高校世界史の「履修状況」に関する熊大生へのアンケート調査 —

鶴島 博和, 内田 開\*, 嘉村 潔高\*, 安部 統己\*, 江原 淳貴\*

### Problematic Matters and Difficulties World History Education Faces (3)

Hirokazu TSURUSHIMA, Kai UCHIDA, Kiyotaka KAMURA, Noriki ABE, Atsuki EHARA

(Received October 1, 2015)

The Part III is an inquest report of questionnaire which we had on 9<sup>th</sup> and 10<sup>th</sup> in July, 2015, concerning of revelation of World History lessons which the students took in their high-schools.

**Key word :** World History Education

#### 0-3 はじめに

前稿「世界史教育の現状と課題 (Ⅱ)」2014 (以下第Ⅱ部と表記する) にて, 鶴島が全体の構成について語った部分を引用すれば「実際に世界史がどのように教授され, それを生徒がどのように受け止めているかを, アンケートをもとに検討する<sup>67)</sup>」こと, これが本稿の目的であり課題である. そしてこの課題には「どのように教授されているか」と「生徒がどのように受け止めているか」という二つの問いが含まれている. この問いは, 様々な問題を射程に入れたものであるため, 本稿では以下で述べるポイントに絞って検討を進めたい. 「どのように教授されているか」に関しては, 生徒が「何を使って学習したか」と「どのように履修して学習したか」という点に注目した. また「どのように受け止めているか」については「世界史の必修」という履修制度に対する学生の意識を検討対象とした.

その際、「履修状況」に注目した. ここでいう「履修状況」とは, 「どの学年で世界史を履修したか」, 「世界史のどの時代を学習したか」といった学習機会や学習内容に関する「状況」をさす. 「履修状況」を具体的に考察することで, 先行研究とは異なる角度から世界史教育の現状と課題を把握できると考えたからである. 第Ⅰ部 (「世界史教育の現状と課題 (Ⅰ)」2013) においては, 「世界史未履修問題」発覚後の研究動向を探ったが, そこで主として議論されてきたのは「高校世界史」の改革の方向性についてであった<sup>68)</sup>. 現在

も様々な提言がなされている状況は変わらないが, 「履修状況」について十分な関心が向けられているとは言えない. 世界史, ひいては高校の社会系科目全体に大きな変革がなされようとしている, ここで立ち止まって高校世界史のより実態に即した現状を把握することに意味があるのではないだろうか<sup>69)</sup>. そして授業の中で浮上した「未履修問題とは何だったのか」という議論から派生した, 院生の高校時代の「地理歴史科」の履修に関するある経験は, 指唆的であった. センター試験の受験科目として選択しなかったために, 「特定の時代のみ」学習しただけで世界史を「履修した」とみなされたことがあったのである<sup>70)</sup>. このような学習形態を仮に「限定的学習」と呼ぶことにする. そしてこの個人的経験が一般的であるかどうかを, アンケートを実施することで明らかにすることとした.

#### 1 アンケート調査について

資料が, 実施したアンケートである. 以下, 問いの順番に沿って内容を簡単に説明しておこう. 問1, 2までは回答者の属性を問うものである. 問3は社会系科目におけるセンター試験の受験科目について質問した (表16-1)<sup>71)</sup>. 問4は, 「履修状況」を把握するための問いになっている. 問4 (2) ③の時代区分に関しては, 第Ⅱ部において設定したものを引用した<sup>72)</sup>. 問4 (3) は記述欄を設けて, 現在の履修制度に対する学生の意見を集めた. 問5は「未履修問題」がどの

\* 教育学研究科社会系教育専修院生

程度認知されているかを調べるための問いである。以上がアンケートの調査項目である。

次に実施方法について説明する。アンケート調査は熊本大学の学生を対象に、二回実施した。第一回目は2015年7月9日に、教育学部開講の教職科目の受講者を対象に、第二回目は7月10日に全学部を対象に開講している教養科目の受講者を対象にした<sup>73</sup>。回答者数は一回目が171名、二回目が207名で、合計378名である。

回収したアンケートから回答者の属性を表13で示した。第一回目のアンケートは教育学部開講の講義で行われたため、教育学部の学生の割合が高いが、その他学部の学生も40パーセント以上を占めていた。また対象学生の出身地も多様である(表14)<sup>74</sup>。高校の公立出身者と私立出身者の割合は大きく差が開いたが、文系と理系の割合はほぼ同じになっている(表15)。次節では「履修状況」を中心にアンケートの分析を行う。

(鶴島博和, 内田開, 嘉村潔高)

## 2. 分析結果

本節では、先の二つの問いに関する回答を分析していく。まず、一つ目の問いである「どのように教授されているか」について、生徒が「何を使って学習したか」という点に注目した。そのために用意した設問は資料の問4(2)①である。この設問で得たデータをまとめたものが表17である<sup>75</sup>。これによると、教師の作成したプリントを使用していたと回答した学生が378名の回答者のうち178名、つまり約半分を占めていた。さらに、プリント学習を行っていた178名に関して、教科書と併用している場合と、プリントのみ使用している場合に分類したところ、前者が90名、後者が88名であった。全体で見ると、実に4人に1人の学生がプリントのみの学習を受けており、教科書は使用せずに学習していたということが明らかとなった。

次に、生徒が世界史を「どのように履修して学習したか」を検討する。「履修状況」を把握するために用意した設問は、「どの学年で世界史を履修したか」を問う問4(1)と、「世界史のどの時代を学習したか」を問う問4(2)②である。まず、「世界史のどの時代を学習したか」、つまり学習範囲についての検討を行う。問4(2)②で得られたデータをまとめたものが表18-1である。ここから、特定の時代のみ「限定的学習」にとどまっていた学生が少なくとも137名(36.24%)いたことがわかる。さらに問3の設問とクロスして分析を行うと、その結果、世界史Bをセンター試験で

受験したかどうか、学習範囲に大きく影響していることが明らかとなった。世界史Bの受験者は104名であったが、そのうち「すべての時代を学習した」と回答した学生は84名と8割を超えている。これに対して、世界史Bの未受験者274名のうち、「すべての時代を学習した」と回答した学生は43名と15.69%にとどまっており、「特定の時代のみ学習した」と回答した学生126名(45.98%)のほうが上回った。このことから、世界史Bの受験者は「受験に必要な」世界史を最後まで学習し、世界史B未受験者は「受験に必要な」世界史を限定的に学習した傾向がみられることが明らかとなる。また、表18-1からは、「わからない」「忘れた」と回答した学生のほとんどが世界史未受験者であることもわかる。以上のことから学習範囲に関する「履修状況」は、センター試験受験の有無が大きな影響を与えており、センター試験の未受験者の半数近くが「限定的学習」という形をとっていることが明らかになった。

また、問4(2)③で、「特定の時代のみ学習した」と回答した学生のみに「どの時代を学習したか」を尋ねた。学生には学習した時代について「先史」「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」の6つから選んで回答してもらった。この結果を整理したものが表18-2及び表18-3である。表18-2は、学生が回答した時代を集計したものであるが、学習した時代の数及び組み合わせが、回答者によって異なっているため、新たに表18-3を作成することで、「学習パターン」の分析を試みた。これは、特定の時代1箇所 checked を入れた人(例えば先史のみにchecked)を「学習パターン1」とし、特定の時代2箇所 checked を入れた人(例えば先史と古代にchecked)を「学習パターン2」とする場合分けである。全部で5つの学習パターンに分けられるが、これにより、「限定的学習」を行った学生がどの時代を、どのようなパターンで学習したかを把握できる。このようにして作成した表18-3から、それぞれの学習パターンに共通の類型があることが明らかになった<sup>76</sup>。学習パターン2から5のそれぞれで最も多い組み合わせであったのが、先史から学習を開始している組み合わせである。パターン2では56.09%が先史と古代の組み合わせで学習しており、パターン3では54.28%が先史から中世まで、パターン4では71.42%が先史から近世まで、パターン5では80%が先史から近代までを学習している。つまり、「限定的学習」に見られる類型として、ほとんどが「先史」から学習を始めているが、途中までのところで学習が終了している状況であることが予想できる<sup>77</sup>。センター試験で世界史を受験しない生徒のほとんどが、「世界史」という科目を最後まで学習することなく「限定的

学習」の状態を終えているのである。

アンケートでは、「履修状況」を把握するためのもう一つの問いを設けている。問4(1)は、「どの学年で世界史を履修したか」を明らかにするためのものである。これによって得られたデータを整理すると、「すべての時代を学習した」と回答した127名のうち92名(約72%)が複数年かけて世界史を学習しているのに対し、「特定の時代のみ学習した」と回答した学生は137名のうち122名(約90%)が1年間のみしか世界史を学習していないことが明らかになった。前稿第Ⅱ部で検討した「語句数」「ページ数」からも明らかのように、世界史という科目の学習量の多さでは、1年間(70時間)の学習のみでは「特定の時代のみ」の「限定的学習」になるのは当然ともいえる。「限定的学習」が生じる原因は、予定通りに授業ができないという教師の力量不足はここでは検討しないとしても、他教科の授業との兼ね合いによるカリキュラム編成や世界史という科目そのものの学習量の多さなどに起因するそれぞれの学校で、教師が世界史を学習させるのに十分な時間を確保できないという現状にあることを考えなくてはならない。しかし、より問題なのは、授業の進行に従って、世界史をセンター試験で受験しないことにした生徒が世界史の受講をその時点で回避し、受験科目に時間を傾注できる、「回避と傾注の回路」ができていくことにある。特定の時代を学習するだけでも、歴史を学ぶことはできる。しかし、あたかも、センター試験という目的地に荷物を運ぶための、物流システムのようなカリキュラムでは、歴史認識の育成などは期待できないであろう。

ここまで、学生の「履修状況」を把握することで「限定的学習」という事態が生じている現状を明らかにした。ここからは、「世界史を生徒がどのように受け止めているか」という現状について見ていく。そのための問いが4(3)で、その結果が表19である。この中で、「世界史を必修とすべきである」と考えている学生は78名(20.63%)おり、「日本史を必修とすべきである」と回答している学生(70名)と「地理を必修とすべきである」と回答している学生(24名)を上回っている。一方で、「全てを必修にすべき」と回答した62名の学生の中で、すべての科目(世界史・日本史・地理)が重要である(9名)や3つの科目に共通する幅広い知識が必要である(7名)などの意見がみられ、「特定の科目を必修にすべきでない」と回答した学生の意見を見てみると、興味があるものを学びたい(41名)、自由に選択したい(19名)などの意見がみられた。このように、「全てを必修にすべき」「特定の科目を必修にすべきではない」と回答した学生の多くは、世界

史・日本史・地理のそれぞれの科目についてどれも重要であると考えていることが予想できる。以上より、世界史必修を否定的に考えている学生が多いわけではないということがわかる。

しかし、世界史必修に対して否定的な意見がみられたのも事実である。「日本史を必修にすべき」と回答した意見の中には、「自国の歴史を理解することの方が重要である」と考える学生が多数存在している。また、「特定の科目を必修にすべきではない」と回答した学生の中には、「世界史が必修である必要はない」、「特に役に立たない」などと述べている意見も見られた。世界史そのもの、あるいは必修科目として学ぶことに意義を見い出していない学生が少なからずいることを示しているといえる。また、世界史必修に対して批判的な意見の中で最も多くみられたのが、「情報量が多すぎる」や「受験に必要なものだけ学べば良い」、「学校側・生徒側の負担が増える」といった「負担感」が読み取れるものである。第Ⅱ部で検討した「語句数」「ページ数」から導き出される世界史の「情報量の多さ」や、本稿がここまで明らかにしてきた「限定的学習」という現在の「履修状況」が、生徒にも少なからず負担感を与えており、それが学ぶ意義の見出しづらさに影響していることが考えられる。特定の時代だけの学習では、「世界史を学ぶ意義」を見い出せというのは無理があるだろう。

世界史、ひいては高校の社会系科目全体に大きな変革がなされようとしている今、このような「履修状況」に目を向けずに改革を行うことは危険なことであるように思える。アンケート調査を通して把握した高校世界史の現状を踏まえるならば、改革を行う際には、「履修状況」の中に存在している「負担感」と「回避と傾注の回路」に目を向けることが必要であろう。

最後に表20によるとアンケートに回答した学生の7割以上が「未履修問題」を「知らない」と答えていた。安井萌氏は2011年に発表した論文の中でこの「未履修問題」について「一見したところすでに過去の出来事になり、われわれの記憶から遠ざかりつつある」<sup>78</sup>と述べているが、このアンケート結果はそれを裏付ける1つのデータとなる。確かに現在「未履修」はなくなったといってよいだろう。しかしそれは、実施したことにして忌避する「限定的学習」に形を変えて、今も世界史教育に課題を残しているといえる。新科目設立により、私たちが注目した「履修状況」はどのように変化していくのか、今後の動向を見守りつつひとまず稿を終えたい。

(鶴島博和, 安部統己, 江原淳貴)

資料

## 高校社会系科目「世界史」履修状況に関するアンケート

熊本大学大学院 教育学研究科社会系教育専修

内田開 嘉村潔高 安部統己 江原淳貴

私たちは現在、大学院の講義で「世界史教育の現状と課題」というテーマを掲げ、研究をしています。一昨年度からこのテーマで熊本大学教育学部紀要に論文を投稿し、本年度も研究論文を作成する予定であります。今回、その研究の一環として「高校社会系科目の履修状況」に関するアンケート調査をさせていただきたいと思っております。大変お手数ですが、ご協力お願い致します。尚、ご回答いただいた内容は研究目的以外で使用することはありません。

学部・課程・専攻・学年・性別のご記入をお願い致します。

( ) 学部 ( ) 課程・専攻 ( ) 年 性別(男・女)

問1 あなたの出身都道府県はどこですか。

( )

問2 あなたの出身高校について伺います。該当する番号に○印をつけてください。

①設置区分について

1. 公立 2. 私立 3. 国立 4. その他 ( )

②コースについて

1. 文系 2. 理系 3. その他 ( )

問3 センター試験の受験科目について伺います。受験した科目に○印を付けてください。(複数選択可)

1. 世界史 A 2. 世界史 B 3. 日本史 A 4. 日本史 B 5. 地理 A  
6. 地理 B 7. 現代社会 8. 倫理 9. 政治・経済 10. 倫理、政治経済

問4 高校での社会系科目の履修について伺います。

(1) どの科目をどのように履修しましたか。覚えていない方は右に丸を付けてください

※地理歴史科の科目は「使用した教科書」ではなく、「履修した科目」を書いてください。区別がわからない方は「世界史」(あるいは「日本史」「地理」)とだけ書いてください

例：1年 (世界史 B と 日本史 A) 2年 (世界史 A と 現代社会) 3年 (世界史 B と 現代社会)

1年 ( ) ・覚えていない

2年 ( ) ・覚えていない

3年 ( ) ・覚えていない

(2) 「世界史 A」及び「世界史 B」の履修について伺います。何を使って、どの範囲を学習しましたか。該当する番号に○印を付けてください。

① 使用したテキストについて(複数選択可)

1. 世界史 B の教科書
2. 世界史 A の教科書
3. 世界史 A と世界史 B の教科書両方
4. 教科書は使用しなかった
5. 教師の作成したプリントなどを使用した
6. その他 ( )

② 学習した範囲について

1. すべての時代を学習した
2. 特定の時代のみ学習した
3. わからない
4. 忘れた

③ ②の質問で「2. 特定の時代のみ学習した」と答えた方に伺います。学習した内容は以下のどの時代にあたりますか。(複数選択可)

1. 先史(人類の誕生など)
2. 古代(古代文明の形成から 6 世紀頃まで)
3. 中世(6 世紀ごろから「世界の一体化」の前まで)
4. 近代(「世界の一体化」から市民革命、産業革命の前まで)
5. 近代(市民革命、産業革命から第 2 次世界大戦の終結まで)
6. 現代(第 2 次世界大戦以降現在まで)

(3) 現在の地理歴史科の科目の履修制度について伺います。

①現在「世界史」が必修であることについてどのように思いますか。該当する番号に○印を付けてください。

1. 「世界史」が必修であることが望ましい
2. 「日本史」が必修であることが望ましい
3. 「地理」が必修であることが望ましい
4. すべて必修であることが望ましい
5. 特定の科目を必修にすべきでない

②選択した理由を教えてください

[ ]

問 5 2006 年頃に話題になった「高校未履修問題」を知っていますか。該当する番号に○印を付けてください。

1. よく知っている
2. 聞いたことがある
3. 知らない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

表 13 回答者の所属学部

| 教育学部   | 文学部   | 法学部    | 医学部   | 薬学部   | 工学部    | 理学部   | 計   |
|--------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-----|
| 214    | 26    | 39     | 14    | 11    | 60     | 14    | 378 |
| 56.61% | 6.87% | 10.31% | 3.70% | 2.91% | 15.87% | 3.70% |     |

表 14 回答者の出身県

| 熊本     | 福岡     | 佐賀    | 長崎    | 大分     | 宮崎    | 鹿児島   | 沖縄    | 山口    | 広島    | その他   | 計   |
|--------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 138    | 78     | 20    | 26    | 38     | 19    | 24    | 4     | 6     | 4     | 21    | 378 |
| 36.50% | 20.63% | 5.29% | 3.87% | 10.05% | 5.02% | 6.34% | 1.05% | 1.58% | 1.05% | 5.55% |     |

表 15 回答者の出身高校の設置区分と所属コース

| ①設置区分 | 公立     | 私立     | その他   |
|-------|--------|--------|-------|
|       | 278    | 95     | 5     |
|       | 73.54% | 25.13% | 1.32% |
| ②コース  | 文系     | 理系     | その他   |
|       | 188    | 184    | 6     |
|       | 49.73% | 48.67% | 1.58% |

表 16-1 センター試験の「社会系科目」における受験科目

| 世界史 A | 世界史 B  | 日本史 A | 日本史 B  | 地理 A  | 地理 B   | 現代社会   | 倫理     | 政経    | 倫政     | 未記入   |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|
| 9     | 104    | 10    | 123    | 3     | 131    | 51     | 49     | 26    | 90     | 2     |
| 2.38% | 27.51% | 2.64% | 32.53% | 0.79% | 34.65% | 13.49% | 12.96% | 6.87% | 23.80% | 0.52% |

表 16-2 「地理歴史科」の受験者数（理系出身者のみ）

| 世界史 B  | 日本史 B  | 地理 B   |
|--------|--------|--------|
| 25     | 38     | 96     |
| 24.03% | 30.89% | 73.28% |

表 17 授業時のテキストの使用状況

| 教科書 B | 教科書 A | 両方 | 未使用 | プリント | その他 | 未記入 | 教科書のみ  | プリント併用 | プリントのみ |
|-------|-------|----|-----|------|-----|-----|--------|--------|--------|
| 176   | 130   | 14 | 13  | 178  | 33  | 11  | 153    | 90     | 88     |
|       |       |    |     |      |     |     | 46.22% | 27.19% | 26.58% |

表 18 - 1 「世界史」の学習範囲

|           | すべて    | 特定     | わからない | 忘れた    | 未記入   | 計   |
|-----------|--------|--------|-------|--------|-------|-----|
| 回答者       | 127    | 137    | 27    | 71     | 16    | 378 |
|           | 33.59% | 36.24% | 7.14% | 18.78% | 4.23% |     |
| 世界史 B 受験者 | 84     | 11     | 0     | 7      | 2     | 104 |
|           | 80.76% | 10.58% |       | 6.73%  | 1.92% |     |
| 未受験者      | 43     | 126    | 27    | 64     | 14    | 274 |
|           | 15.69% | 45.98% | 9.85% | 23.36% | 5.11% |     |

表 18-2 「特定の時代のみ学習した」の内訳

| 先史     | 古代     | 中世     | 近世     | 近代     | 現代    | 未記入    | 回答者 |
|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|-----|
| 69     | 81     | 71     | 62     | 49     | 7     | 24     | 139 |
| 49.64% | 58.27% | 51.07% | 44.60% | 35.25% | 5.03% | 18.97% |     |

表 18-3 「特定の時代のみ学習した」の学習範囲のパターン

|          | 先史     | 古代     | 中世     | 近世     | 近代     | 現代     | 計  |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|----|
| 学習パターン 1 | 0      | 4      | 3      | 5      | 4      | 2      | 18 |
|          | 0      | 22.22% | 16.66% | 27.77% | 22.22% | 11.11% |    |
|          | 先史・古代  | 古代・中世  | 中世・近世  | 近世・近代  | 近代・現代  | その他    | 計  |
| 学習パターン 2 | 23     | 2      | 2      | 12     | 1      | 1      | 41 |
|          | 56.09% | 4.87%  | 4.87%  | 29.26% | 2.43%  | 2.43%  |    |
|          | 先史～中世  | 古代～近世  | 中世～近代  | 近世～現代  | その他    | 計      |    |
| 学習パターン 3 | 19     | 2      | 12     | 1      | 1      | 35     |    |
|          | 54.28% | 5.71%  | 34.28% | 2.85%  | 2.85%  |        |    |
|          | 先史～近世  | 古代～近代  | その他    | 計      |        |        |    |
| 学習パターン 4 | 10     | 3      | 1      | 14     |        |        |    |
|          | 71.42% | 21.42% | 7.14%  |        |        |        |    |
|          | 先史～近代  | 古代～現代  | 計      |        |        |        |    |
| 学習パターン 5 | 4      | 1      | 5      |        |        |        |    |
|          | 80.00% | 20.00% |        |        |        |        |    |

表 19 「地理歴史科」の科目の履修制度について

| 世界史を必修にすべき | 日本史を必修にすべき | 地理を必修にすべき | 全てを必修にすべき | 特定の科目を必修にすべきでない | 未記入 |
|------------|------------|-----------|-----------|-----------------|-----|
| 78         | 70         | 24        | 62        | 144             | 4   |
| 20.63%     | 18.52%     | 6.35%     | 16.40%    | 38.10%          |     |

表 20 「高校未履修問題」の認知度

| よく知っている | 聞いたことがある | 知らない   | 未記入   | 計   |
|---------|----------|--------|-------|-----|
| 16      | 77       | 283    | 2     | 378 |
| 4.23%   | 20.37%   | 74.87% | 0.53% |     |

<sup>67</sup> 前稿(2014)「世界史教育の現状と課題(Ⅱ)」『熊本大学教育学部紀要』63号, p. 33.

<sup>68</sup> 前稿(2013)「世界史教育の現状と課題(Ⅰ)」『熊本大学教育学部紀要』62号, pp. 30-32.

<sup>69</sup> 本アンケート実施後, 2015年8月5日に文部科学省が, 2020年度をめどに高校に必修の「公共」「歴史総合」(いずれも仮称)などの新科目を設ける案を公表した。『朝日新聞』2015年8月6日朝刊より。

<sup>70</sup> 本稿執筆に携わった大学院生4名の内2名がこの状態であった。

<sup>71</sup> 表16-2は地歴三科目の受験者のうち理系出身者のみを抽出した表である。理系出身者の73.28%がセンター試験で地理を受験していることがわかる。

<sup>72</sup> 前稿(2014), pp. 35-36. 本アンケートでは「近世」を「近代」と書き間違えてしまっている。しかしその横に具体的な時代の目安を書いているため, アンケート結果に大きく影響を及ぼすものではないと判断した。

<sup>73</sup> アンケート調査の実施に際して, 大野正久氏・中尾健一郎氏(教職科目担当), 八幡英幸氏(教養科目担当)にご協力いただいた。ここに記して感謝の意を伝えたい。

<sup>74</sup> 回答者の出身校の多くがいわゆる進学校が中心である可能性が高い。

<sup>75</sup> 表17において「その他」の回答にあったものとしては, 資料集や問題集がほとんどであった。

<sup>76</sup> 表18-3において「その他」の回答としては, 「中世」と「近代」の組み合わせや, 「古代」「近世」「近代」などといった時代が連続していない組み合わせである。

<sup>77</sup> 先史から学習を開始していないが割合としては多い組み合わせとしては, パターン2において近世と近代を学習しているもの(29.26%)と, パターン3において中世から近代までを学習している組み合わせである(34.28%)。いずれも近代が学習範囲に含まれていることから, 近代重視の組み合わせであるといえる。

<sup>78</sup> 安井萌(2011), p. 23.